

今月の重点活動

■スマート農業 広域アンテナでロボットコンバインを運用

瑞穂市の(農)巢南営農組合では、令和元年度からロボットコンバインを使用した水稲や小麦の収穫作業を行っている。これまでは移動基地局をほ場周辺に設置して刈取作業を行ってきたが、JAぎふ合渡支店に広域アンテナが建設されたため、6月5日～7日、本アンテナを使用したロボットコンバインによる小麦の収穫を行った。

作業初日は農業普及課の他、JAぎふ、農機メーカーが立会い、広域アンテナでも問題なく自動運転できること、移動基地局の設置・撤収が不要となり、省力になることが確認された。

今後、農業普及課では、広域アンテナを使用した時のロボットコンバインの作業時間を集計するとともに本アンテナの利用拡大を推進していく。



【自動運転の様子】

(地域支援第三係・松本政行)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■いちご 本巣苺技術部会勉強会の開催

6月29日、瑞穂市の生産者ほ場において、本巣苺技術部会の勉強会が開催された。今年、本技術部会には2名の新規就農者が加入しており、今後の育苗管理などについて勉強した。

農業普及課からは、前作に試験を実施して高い防除効果の得られた「天敵によるアザミウマ類防除」の説明を行った。アザミウマ類は難防除害虫であることから、生産者の関心は高く、多くの質問があった。

今後も、農業普及課では、関係機関と連携して技術部会の活動を支援していく。



【勉強会の様子】

(園芸産地支援第一係・菊井裕人)

■女性農業経営アドバイザー オンライン研修に参加

6月17日、OKBふれあい会館において、GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック第1回県研修会および第1回全体会が開催された。

研修会はオンライン会議で開催され、ZOOMを活用した会議の参加方法などを学んだ。また、全体会は本年度の活動について検討した。新型コロナの影響で活動が縮小している中、久しぶりの活動となったため、16名と多くの会員が出席して積極的な情報交換が行われた。

今後も、農業普及課では、自主的なアドバイザーの活動を支援



【オンライン会議に参加する会員】

(園芸産地支援第一係・横田京子)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 ジャンボタニシ対策研修会の開催

羽島市内の水田では、今年もジャンボタニシが多発しており、移植直後の苗の食害が散見されている。6月18日、下中カントリエレベーターにおいて、ジャンボタニシ対策研修会が開催された。

農業普及課からジャンボタニシの生態と対策について説明を行った後、育苗箱とペットボトルを利用した捕獲器を作製した。参加した生産者は思ったより簡単に捕獲器が作れることを知り、研修会で作製した捕獲器を早速ほ場内に設置してみよう、と期待している様子であった。

今後、農業普及課では、ジャンボタニシの防除について随時情報提供を行っていく。



【研修会の様子】

(地域支援第二係・木村裕子)

■羽島市立福寿小学校 田植え体験学習の支援

羽島市内の小学校では、毎年5年生が総合学習の時間を利用した稲作体験活動を行っており、6月14日、福寿小学校において、田植え体験学習が開催された。

農業普及課では、稲作の概要や田植えを行う「ハツシモ」の品種特性を説明するとともに地域の生産者やJA、市役所と体験学習の支援を行った。初めて水田に入った児童らは土の感触に戸惑いながらも、準備された苗を最後まで植えることができた。終了後には、ほ場を眺めながら、「楽しかった」、「秋の収穫が楽しみ」などの声が聞かれた。

10月には収穫体験が計画されており、農業普及課では、関係機関とともに支援していく。



【田植え体験の様子】

(地域支援第二係・木村裕子)

■採種小麦 収穫作業が行われる

岐阜農林事務所管内では、農業法人などが転作田を利用した麦類の生産に取り組んでいる。管内では「タマイズミ」が約400ha栽培されており、これに使用する種子は本巣市と北方町に設置された採種ほ場で生産されている。令和3年産は約14ha作付されており、農業普及課では種子必要量の確保に向けて栽培管理指導を行う一方、種子審査員として4月から5月にかけて2回のほ場審査を行ってきた。

今年は3月以降、暖かく経過したため出穂が早く、例年より5日程早い5月30日～6月1日に収穫作業を行った。作業期間中は好天に恵まれ、小麦粒が順調に乾いたことから、発芽率は90%を超える良好な結果であった。

今後、農業普及課では、種子としての精選状況を把握し、最終的な種子生産量を確認していく。



【採種小麦の収穫】

(地域支援第三係・松本政行)